

## 九州大学蔵抄物目録（Ⅰ）

青木，博史  
九州大学大学院博士後期課程 | 日本学術振興会特別研究員

<https://doi.org/10.15017/10363>

---

出版情報：文献探究. 35, pp. 57-74, 1997-03-31. 文献探究の会  
バージョン：  
権利関係：

# 九州大学蔵抄物目録（Ⅰ）

青木 博史

## 凡例

一 本目録は、九州大学に所蔵される抄物及び抄物に準ずる書物を集めたものである。

一 抄物の定義と範囲については、原則として『国語学大辞典』（国語学会編）の「抄物」の項（柳田征司氏執筆）に拠ったが、江戸時代初期に成立したとされるものもいくつか取り上げた。

一 書物毎の情報項目は以下の通りとした。まず、

書名 巻数 抄者 刊写年代 冊数 所蔵者（図書館番号）

を示し、ついで

表紙（原・改、色、寸法） 外題（題簽） 内題  
奥書・刊記・跋文

について記し、必要に応じて

一 首目 構成（墨付） 版式（匡郭、柱書） 行数  
書き入れ 尾題 印記  
などを記した。

一 備考として、その書物に関する論文、および複製・翻刻等を中心に、必要と思われる情報を記した。その際、当該の書物について便宜上「本抄」と呼ぶことがある。

一 奥書や跋文等の引用にあたり、改行を／で示した。割り書きは〔 〕で示し、虫損等で解読できない箇所については、□で示した。また、これらの引用を含めて原則として新字体で統一した。

一 書名は広く通用のものをとり、必ずしも九州大学における登録名とは一致しない。

一 配列は、内典・外典（漢籍・国書）の順とした。

仏制比丘六物図採摘 三卷 南楚大江抄 寛文七年整版

三冊 附属図書館松濤文庫蔵(第3部B83)

〔表紙〕原 栗皮 二六・八×一九・〇cm

〔外題〕六物採摘(第一冊題簽剥落、第二・第三冊に存

す。原題簽)

〔内題〕六物図採摘 〔柱書〕六物採摘

〔匡郭〕四周双辺 二〇・七×一五・二cm

〔行数〕半面一二行

〔墨付〕第一冊(上巻)四三丁、第二冊(中巻)三六丁、

第三冊(下巻)三九丁

〔跋文〕温故於仲舒問新於齋澣挾其／善而從之鳩成三卷

題目謂之／六物採摘焉所謂採之言綵也／摘諸家之冊肯

以潤色此凶故／名斯鈔也盖以古講者但敷演／義理而無

分節分之起尽蒙求／尚壅今為之啓迪聊示其科條／矣所

患識見荒蕪有重霧炮勳／雜礫塵飛眞後學者添削之也／

示尔

〔刊記〕寛文七曆<sup>丁</sup>六月吉日／秋田屋九兵衛板

〔備考〕『国書総目録』によると、寛文七年版の他、寛

永十九年版が存すること。『日本大蔵経』宗典部

・戒律宗章疏二に翻刻がある。

教誡儀鈔 抄者未詳 江戸中期写

一冊 附属図書館松濤文庫蔵(第3部B19)

〔表紙〕原 黄土色 二四・五×一七・三cm

〔外題〕教誡律儀鈔(直接墨書)

〔内題〕教誡儀鈔 〔尾題〕教誡儀私抄

〔行数〕半面一一行 〔構成〕序二丁、本文四六丁

〔序文〕(前略)此科与鈔往々相違以此科可為正云云又

此抄往々有誤謬／律三大部能々学之重而可決定云云

〔印記〕巻首に「寶松院」(黒)「松濤文庫」(紺)「妙定

院」(朱)「三縁山新溪起信窟蔵書」(朱)

〔備考〕抄者・書写者等未詳。漢文体の注文が多いが、

片仮名交じりゾ体の注釈箇所もごくまれに見られる。

・天竺ニハ濫カアル故ニ沙門釈氏ト並ヘテ呼ゾ

・利潤――利ハ利益ゾ

臨濟録抄 四巻 伝万安英種抄 寛永九年整版

四冊 文学部蔵(国文11・17)

〔表紙〕原 栗皮 二七・七×一九・〇cm

〔外題〕鎮州臨濟慧照禪師語録鈔(改題簽)

〔内題〕鎮州臨濟慧照禪師語録鈔

〔柱書〕臨濟録鈔

〔匡郭〕四周双辺 二一・四×一六・三cm

〔行数〕半面一六行（小字）

〔墨付〕第一冊五一丁、第二冊六三丁、第三冊四三丁、

第四冊六〇丁

〔刊記〕寛永九<sup>壬申</sup>歳十二月吉旦／於二條玉屋町村上平

楽寺開板

〔備考〕高羽五郎『抄物小系』二一、および柳田聖山

『臨濟録抄書集成』（中文出版社）に寛永九年整版の

影印がある。

無門関抄 二卷 伝万安英種抄 寛永十四年整版

二冊 附属図書館松濤文庫蔵（第3部K79）

〔表紙〕原 茶色 二六・八×一八・六cm 題簽剥落

〔内題〕無門関 〔尾題〕無門関抄

〔柱書〕無門関抄

〔匡郭〕四周双辺 二〇・一×一六・一cm

〔行数〕半面一四行 〔書入〕有（墨）

〔刊記〕寛永丁丑夷則吉辰

〔備考〕伝万安英種抄無門関抄の寛永十四年整版は、柳

田（一九九二b）によると、甲種と乙種に分けられるらしい。これがそのどちらに属するのか、あるいはまた別の種に属することになるのかについては未詳。

無門関抄 二卷 伝万安英種抄 寛永十四年整版

一冊 文学部蔵（国文11・46）

〔表紙〕原 紺色 二七・〇×一九・四cm 題簽剥落

〔内題〕無門関 〔尾題〕無門関抄

〔柱書〕無門関抄

〔匡郭〕四周双辺 二〇・六×一六・二cm

〔行数〕半面一四行 〔書入〕有（墨）

〔刊記〕寛永丁丑夷則吉辰

〔備考〕柳田（一九九二b）の甲種乙種についてはやはり未詳であるが、松濤文庫蔵本とは柱刻の魚尾などから違う版ではないかと推定される。伝万安英種抄無門関抄は、中尾良信『禅籍善本古注集成無門関』（名著普及会）に駒沢大学本の影印があり、『抄物小系』二に寛永十四年整版が収められている。

禅宗無門関抄 二卷 伝雪庭春積抄 無刊記整版

二冊 附属図書館松濤文庫蔵(第3部K77)

〔表紙〕原 栗皮 二七・二×一七・六cm

〔外題〕無門関抄(原題簽、但し上巻は題簽剥落)

〔内題〕禅宗無門関 〔柱書〕無門関

〔匡郭〕四周双辺 一九・六×一四・三cm

〔行数〕半面一二行 〔書入〕有(墨・朱)

〔備考〕伝雪庭春積抄禅宗無門関抄の古活字版及び整版

の諸版については、柳田(一九九五)に詳細な考察が

ある。同論文によると、本抄と同じ無刊記整版は、早

稲田大学図書館・龍谷大学図書館・松ヶ岡文庫二本・

山田忠雄氏・金田弘氏のそれぞれの所蔵本があるらし

いが、「寛永十年整版と同版か覆刻版か未確認」であ

るとされている。

禅宗無門関抄 二卷 伝雪庭春積抄 寛永二年整版

一冊 文学部蔵(国文11・19)

〔表紙〕原 小豆色 二七・七×一八・一cm 題簽剥落

〔内題〕禅宗無門関 〔柱書〕無門関

〔匡郭〕四周双辺 一九・八×一四・四cm

〔行数〕半面一二行 〔書入〕有(墨・朱)

〔刊記〕寛永二~~五~~乙年霜月吉辰加 校合重刊

〔備考〕表紙裏に古活字版の刷遣りがある。柳田(一九

九五)で、覆寛永元年古活字版と推定されている。

禅宗無門関抄 二卷 伝雪庭春積抄 慶安元年整版

二冊 文学部蔵(国文11・47)

〔表紙〕原 紺色 二七・八×一九・七cm

〔外題〕禅宗無門関抄(改題簽か)

〔内題〕禅宗無門関 〔柱書〕無門関

〔匡郭〕四周双辺 二〇・一×一五・五cm

〔行数〕半面一六行 〔書入〕有(墨・朱)

〔刊記〕慶安戊子孟夏吉日／書林豊興堂梓行之

〔備考〕柳田(一九九五)で、覆慶安元年版慶安元年頃整

版と推定されている。また、本抄と同じ版は、他に東

京大学文学部国語研究室に所蔵されるらしい。伝雪庭

春積抄禅宗無門関抄は、『禅籍善本古注集成無門関』

に寛永元年古活字版が、『抄物小系』一に寛永十年整

版が、それぞれ収められている。

禅宗無門関私鈔 二卷 規伯玄方抄 慶安三年整版

二冊 文学部蔵(国文11・20)

〔表紙〕原 きなり色 一九・二×二六・四cm

〔外題〕新編無門関私鈔(改題簽か)

〔内題〕禅宗無門関私鈔 〔尾題〕無門関私鈔

〔柱書〕無門関抄

〔匡郭〕四周双辺 二一・〇×一五・一cm

〔行数〕半面一四行 〔書入〕有(墨)

〔刊記〕慶安三~~庚~~稔重陽吉旦/雕開/二條通玉屋町村上

平楽寺

〔備考〕内題の下に「幻門自雲記」とある。『禅籍善本

古注集成無門関』に影印があり、『国文東方仏教叢書』

に翻刻がある。

禅林類聚撮要鈔 四卷 万安英種抄 寛永十九年整版

四冊 附属図書館松濤文庫蔵(第3部K36)

〔表紙〕原 茶色 二七・四×一八・六cm

〔外題〕禅林類聚撮要(第一・二・四冊題簽剥落、第三

冊にのみ存す。改題簽か)

〔内題〕禅林類聚撮要鈔(目録題。それぞれ巻首にあり)

〔尾題〕本則抄(巻一のみに存す) 〔柱書〕本則抄

〔匡郭〕四周双辺 二一・五×一五・七cm

〔行数〕半面一五行

〔刊記〕寛永壬午三月吉旦 書舎是誰新刊

〔備考〕金田(一九七六)によると、この他、慶安三年・

承応二年版がそれぞれ存すること。なお、寛永十

九年整版は駒沢大学文学部国文学研究室編『禅門抄物

叢刊』(汲古書院)に影印がある。

大慧普覚禅師書抄 四卷 伝万安英種抄 寛永十一年整

版 四冊 附属図書館碩水文庫蔵(タ15)

〔表紙〕原 はなだ色 二七・一×一九・三cm

〔外題〕大恵書鈔(原題簽)

〔内題〕大慧普覚禅師書抄 〔柱書〕大恵書抄

〔匡郭〕四周双辺 二一・二×一六・〇cm

〔行数〕半面一四行

〔墨付〕第一冊五五丁、第二冊五三丁、第三冊四八丁、

第四冊五〇丁

〔刊記〕寛永十一甲戌孟冬良辰/三条寺町/安田十兵衛

新刊

〔備考〕『抄物小系』一三に寛永十一年整版の影印がある。

大慧普覚禪師書抄 四卷 伝万安英種抄 寛永十一年整

版 四冊 文学部蔵(国文11・16)

〔表紙〕改か 焦茶色 二八・一×一九・三cm

〔外題〕大恵書鈔(改題簽)

〔内題・版式・墨付〕右に同じ

〔書入〕有(朱・墨)

〔刊記〕寛永十一甲戌孟冬良辰／三条寺町／伊藤助兵衛

新刊

四部録抄 伝万安英種抄 無刊記整版

一冊 附属図書館松濤文庫蔵(第3部K17)

〔表紙〕原 はなだ色 二五・九×一八・八cm

〔外題〕四部録抄(原題簽)

〔匡郭〕四周单边 二〇・〇×一五・六cm

〔行数〕半面二〇行

〔構成〕「信心銘」抄七丁、「證道歌」抄一八丁、「十

牛図」抄一三丁、「坐禅儀」抄五丁。墨付全四三丁

〔備考〕金田(一九七六)によると、松ヶ岡文庫に無刊記本があるらしい。

四部録抄 伝万安英種抄 寛永十年整版

一冊 附属図書館支子文庫蔵(181シ3・1)

〔表紙〕原 薄茶色 二七・七×一八・〇cm

〔外題〕四王部門(直接墨書)

〔匡郭〕四周双边 二〇・〇×一四・四cm

〔行数〕半面一六行(小字)

〔構成〕「信心銘」抄八丁、「證道歌」抄二三丁、「十

牛図」抄一六丁、「坐禅儀」抄六丁。墨付全五三丁

〔刊記〕寛永癸酉夏五□□／中野市右衛門□□

〔書入〕有(朱・墨)

〔備考〕金田(一九七六)によると、無刊記整版・寛永十

年整版の他、正保二年・正保四年・慶安元年・明和七

年版がそれぞれ存するらしい。また、抄者が万安英種

と伝えられることについては、「検討を要しよう」と

述べられている。『統曹洞宗全書』七に翻刻がある。

中庸私抄 二卷 清原宣賢講某聞書 刊年不明古活字版

二冊 文学部蔵(国文11・10)

〔表紙〕原 焦茶色 二八・〇×一九・七cm

〔外題〕中庸私抄(改題簽)

〔内題〕中庸私抄章句 〔柱書〕中抄

〔匡郭〕四周单边 二二・二×一六・七cm

〔行数〕半面一三行

〔墨付〕上冊(上卷)四〇丁、下冊(下卷)四〇丁

〔書入〕有(朱)

〔備考〕川瀬一馬『古活字版の研究 附図』に巻首の図版が収められている。

中庸鈔 抄者未詳 江戸初期写

一冊 文学部蔵(国文11・11)

〔表紙〕原 灰色 二七・九×一九・〇cm

〔外題〕中庸鈔(題簽に墨書。後人の手になるか)

〔内題〕中庸章句 〔尾題〕中庸鈔

〔墨付〕全一〇四丁 〔行数〕半面一四行

〔印記〕巻首に「横地氏珍藏記」「靄隈文庫」「九州帝國大学図書印」(いずれも朱)

〔備考〕中庸の抄物としては一勤■厚抄中庸抄、清原宣賢抄中庸抄、清原宣賢講某聞書中庸抄、烏有子抄中庸

章句童子訓があるが(阿部一九六二、柳田一九八三)、

これらのどの系統にも属さないようである。漢字片仮名交じりゾ体。

莊子抄 一〇巻 清原宣賢抄 正保二年整版

八冊 文学部蔵(国文11・13)

〔表紙〕原 はなだ色 二七・四×一八・五cm

〔外題〕莊子鈔(原題簽、第五・七冊にのみ存する)

〔内題〕莊子 〔柱書〕莊抄

〔匡郭〕四周单边 二一・八×一六・三cm

〔行数〕半面一二行

〔刊記〕正保二酉乙曆／三條通菱屋町／林甚右衛門

〔備考〕本来一〇巻一〇冊の体裁をとっていたものと思われるが、後人の手により八冊に合綴されたものと思われる(第四・八冊においてそれぞれ二巻ずつまとめられており、巻一〇の最終丁を欠く)。なお、天正八年清原国賢書写本は『統抄物資料集成』(清文堂)に影印がある。

蘆抄 三卷 抄者未詳 寛永六年整版

一冊 附属図書館桑木文庫蔵(和書178)

〔表紙〕原 はなだ色 二七・九×一九・〇cm

〔外題〕蘆抄(原題簽)

〔内題〕三国相伝陰陽輪轉蘆内伝金烏玉兔集註

〔匡郭〕四周单辺 二二・五×一五・九cm

〔行数〕半面一二行 〔柱書〕蘆抄

〔構成〕上卷：「三国相伝蘆金烏玉兔集之由来」一五

丁、「三国相伝陰陽輪轉蘆内伝金烏玉兔集註」一三

丁、「三国相伝陰陽輪轉蘆卷第一」五丁、墨付全三

三丁。中卷：「蘆内伝註卷第二」一九丁、「蘆註

下卷第三」三一丁、墨付全五〇丁。下卷：「玉兔集造

屋篇卷第四」八丁、「蘆卷第五」一一丁、「五帝龍

王戦之事」三丁、墨付全二二丁。

〔刊記〕寛永六己巳曆九月吉日／三條於寺町本能寺内菊

屋勝太夫開之

〔備考〕次の箇所それぞれ次のような尾題を有する。

上巻最終丁「蘆内伝抄卷第一終」、中巻最終丁「蘆

抄中終」下巻八丁ウ「蘆抄卷第四之終」、下巻一

六丁才4「蘆抄五終」下巻一九丁ウ「蘆抄第五之

終」、下巻二二丁ウ「蘆抄卷第下終」。

本来三冊を一冊に合綴したものとと思われる。

長恨歌抄 清原宣賢抄か 無刊記整版

一冊 附属図書館音無文庫蔵(565子6)

〔表紙〕原 はなだ色 二六・五×一九・〇cm

〔外題〕天撰長恨歌(原題簽)

〔内題〕長恨歌 〔柱書〕長恨歌

〔匡郭〕四周双辺 二一・四×一七・〇cm

〔行数〕半面一二行 〔墨付〕全三一丁

〔書入〕四丁才「欲懲<sup>ス</sup>耽<sup>シ</sup>物<sup>ニ</sup>室<sup>ニ</sup>乱<sup>ル</sup>階<sup>ヲ</sup>垂<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>将来<sup>ニ</sup>」と

あるのを、「欲懲<sup>レ</sup>耽<sup>ル</sup>物<sup>室</sup>乱<sup>階</sup>垂<sup>於</sup>将来」と朱で訂

正。同趣の書き入れが一八丁ウ、二二丁ウ、二八丁ウ

にもある。

〔備考〕遠藤(一九三四)の記述によると、神宮文庫所蔵

『長恨歌抄』(刊行年月、作者未詳、三十一葉、半葉

一二行)は、本抄と「全く同一本」であるらしい。ま

た、国田(一九八二)に収められている『古版 長恨歌

(中田祝夫博士蔵)』(国田一九八三に翻刻される)

も本抄と同じ版と思われる。

江湖集聞書 二卷 抄者未詳 江戸初期写

一冊 文学部蔵(国文11・40)

〔表紙〕原 栗皮 二五・〇×一七・二cm

〔外題〕江湖風月集略註解(直接墨書、後人の手になる)

〔内題〕江湖集聞書

〔構成〕上巻：目録二丁、本文五二丁、墨付全五四丁

下巻：墨付五九丁

〔行数〕半面一一行

〔書入〕最後尾に「信州全慈所持」(墨)とある。

〔跋文〕簡略化された形で、清拙正澄・天秀道人・東陽

英朝の跋が存する。

〔備考〕もと二冊を一冊に合綴したものとと思われる。

「別本増入之頌」および東陽英朝らの跋文を有し、寿

岳章子『向日庵抄物集』(清文堂)に収められる「江

湖風月集聞書」なる本(以下これを向日庵本と呼ぶ)

と同系統の本文を持つ。赤瀬(一九八七)では「東陽英

朝著か」とされる。向日庵本で「過錢塘江」の注文の

欄外にある「古歌云世中ヲ渡リクラヘテ今ゾシルアワ

ノナルトニ波風ハナシ(27ウ)」という書き入れを

はじめ、「私云獅子一吼百獸腦裂(3才4)」などは

本抄にもやはり同様の形で存し、両者はかなり近い関係にあると思われる。

向日庵本では、頌の全文を掲げた後に注釈文が続くが、本抄では頌は省略されている。また、本文を引用する際において、本抄の方が簡略化されており、そのような態度は跋文においても同様である。跋文の最後尾の部分をも両者示しておく。

・殊告醇厚／之風其斯之謂乎天秀老人夫何人哉胡揮乱  
壁／不見本捩者夥矣余婦老于岐山下明心三年癸丑／

之秋依茶話以商路而猶未了文龜三年癸亥之／冬於少  
林野寺重共切磋遂以終之玉本無瑕彫文／喪徳烏乎重

々闕了也 東陽叟跋(向日庵本112才)

・殊告一了也／東陽叟跋(本抄113才)

錦繡段抄 五巻 月舟寿桂抄・継天寿戲増補 寛永二十

年整版 五冊 文学部蔵(国文11・3)

〔表紙〕原 栗皮 二七・九×一八・一cm

〔外題〕錦繡段抄(改題簽)

〔内題〕新刊錦繡段抄 〔尾題〕錦繡段抄

〔柱書〕錦抄

〔匡郭〕四周双辺 二〇・三×一五・三cm

〔行数〕半面一二行（小字） 〔書入〕有（朱・墨）

〔構成〕第一冊：序・目録三丁、序一丁、一卷五九丁、

墨付全六三丁。第二冊：二卷四七丁。第三冊：三卷四

七丁。第四冊：四卷五一丁。第五冊：五卷五三丁、跋

・刊記一丁、墨付全五四丁。

〔刊記〕寛永升初春／二條寺町／野田弥兵衛開板

〔跋文〕近有新編新選二集而出自中唐至元季／每篇千餘

首童蒙者往々倦背誦余暇日／悉拓為三百二十八篇又自

書以与二三／子令誦之庶幾知鳥獸草木之名云／康正丙

子林鐘十有七日／前建仁天隱叟龍沢書

〔備考〕『抄物小系』一一に寛永二十年整版が収められ

ている。

中華若木詩抄 三卷 如月寿印抄 正保四年整版

三冊 附属図書館萩野文庫蔵（チ29）

〔表紙〕原 栗皮 二七・五×一八・一cm

〔外題〕□□中華若木詩（原題簽）

〔内題〕中華若木詩抄 〔柱書〕若木詩抄

〔匡郭〕四周双辺 二一・一×一五・六cm

〔行数〕半面一七行（小字） 〔書入〕有（朱・墨）

〔墨付〕第一冊（上巻）五一丁、第二冊（中巻）五四丁、

第三冊（下巻）五二丁

〔刊記〕正保四年丁亥卯月下旬吉日

〔備考〕一七行古活字版が亀井孝『十七行古活字版中華

若木詩抄』（東洋文庫）に、一八行古活字版が亀井孝

『語学資料としての中華若木詩抄（校本）』（清文堂）

に、寛永十年整版が中田祝夫『抄物大系』（勉誠社、

のち勉誠社文庫にも）、および福島邦道『中華若木詩

抄』（笠間書院）に、それぞれ影印されている。また、

『新日本古典文学大系』（岩波書店）にも収められて

いる。

中華若木詩抄 三卷 如月寿印抄 正保四年整版

一冊 文学部蔵（国文11・8）

〔表紙〕改 水色 二五・九×一七・九cm

〔外題〕中華若木詩抄（改題簽）

〔内題〕版式・墨付・刊記〕右に同じ

〔備考〕本来三冊を一冊に合綴したものとと思われる。

古文真宝抄 一〇卷 笑雲清三抄 江戸初期整版

一三冊 文学部蔵(国文11・9)

〔表紙〕原 茶褐色 二七・三×一九・五cm

〔外題〕古文真宝鈔(原題簽)

〔内題〕笑雲和尚古文真宝之抄 〔柱書〕古文抄

〔匡郭〕四周双辺 二一・六×一六・七cm

〔行数〕半面一八行

〔構成〕第一冊(卷一上)八〇丁、第二冊(卷一下)九

七丁、第三冊(卷二)六六丁、第四冊(卷三)八二丁、

第五冊(卷四上)六一丁、第六冊(卷四下)五四丁、

第七冊(卷五上)五六丁、第八冊(卷五下)三八丁、

第九冊(卷六)五九丁、第一〇冊(卷七)五三丁、第

一一冊(卷八)五四丁、第一二冊(卷九)六五丁、第

一三冊(卷一〇)三七丁

〔奥書〕此鈔者集 青松 梅庵 一元 湖月ノ之手抄抄

之ノ大永五年乙酉九月十五日於埴田ノ書院書畢矣

〔備考〕卷首に、

松 前建仁青松和尚諱徳昌字桂林

湖 前東福叢庵和尚諱信鏡字湖月

一 前真如一元演禪師勢洲人相国派

梅 万里居士号梅花無尽蔵漆桶

三 前建長笑雲和尚諱清三

とある。「古文真宝後集」の仮名抄物については、柳田(一九九二a)に詳しい。

日本書紀神代卷抄 一一卷 清原宣賢抄 寛文九年整版

七冊 附属図書館音無文庫蔵(61126)

〔表紙〕原 はなだ色 二六・一×一八・二cm

〔外題〕日本紀神代抄(原題簽、第二・三・五・六冊に

存す)

〔内題〕日本紀神代抄 〔柱書〕神代抄

〔匡郭〕四周双辺 二一・四×一五・八cm

〔行数〕半面一二行

〔構成〕第一冊：「起」一七丁「卷一」一四丁、墨付三

一丁。第二冊：「卷二」一三丁「卷三」一六丁、墨付

二九丁。第三冊：「卷四」四一丁。第四冊：「卷五」

八丁「卷六」一七丁、墨付二五丁。第五冊：「卷七」

一二丁「卷八」八丁、墨付二〇丁。第六冊：「下卷之

沙汰」五丁「卷九」五〇丁、墨付五五丁。第七冊：

「卷一〇」二三丁「卷一一」一〇丁、墨付三三丁。

〔奥書〕以卜氏秘説不違背一句抄之但所々雖非／無不審  
暫住師講命短毫至纂疏者以／愚慮私加之者也／少納言  
清原宣賢／此抄書写事行光坊以誓約懇望之間借／許之  
処被正嫡一人之外不可有他見者／也終其功畢／待從三  
位清原朝臣在判／清三位宣賢卿神書講釈之砌予在彼余  
／席兩三聽聞之〔延曆寺千十房発起／本覚寺上人之所  
望〕其以／後送居諸曆歲次此抄感得之間謹令拝／写之  
喜悅至矣尽矣／享祿辛卯冬十一月下澣日 叡岳東塔檀  
那院拙什証

〔刊記〕寛文九己酉年／正月吉辰／武村市兵衛昌常／村  
上勘兵衛光信／山本平左衛門常知／八尾甚四郎友春

〔印記〕卷首・卷末に「水戸南田木谷・藤谷宗兵衛」

〔墨・瓠形〕、卷首に「音無文庫」(緑)「寺尾壽所蔵」

(朱)

〔書入〕第一・七冊最末尾に「延宝六<sup>壬戌</sup>年弥生廿三日

□□□□」、第三冊最末尾に「延宝六<sup>壬戌</sup>歳二月廿三日

□□□□伊藤姓」、第二・四・五・六冊最末尾に「□

□□□□」(□は不明字ではあるが同じ文字を表す)、

第五冊表紙裏に「文政七<sup>申</sup>三月求之／田木谷村宗兵衛

／宗夏」と、それぞれ墨書。

〔備考〕日本書紀の抄物については小林(一九九二)に詳  
しい。

日本書紀神代卷抄 一一卷 清原宣賢抄 寛文九年整版

三冊 附属図書館音無文庫蔵(611211)

〔表紙〕改 はなだ色 二六・三×一八・七cm

〔外題〕日本記神代抄(上・中・下、改題簽)

〔内題・版式・奥書・刊記〕右に同じ

〔構成〕上冊：「起」「卷一」「卷二」「卷三」

中冊：「卷四」「卷五」「卷六」「卷七」「卷八」

下冊：「卷九」「下卷之沙汰」「卷一〇」「卷一一」

〔印記〕各卷首・卷末に「晴信山千手院」(朱)、卷首に

「音無文庫」(緑)

〔備考〕『国書総目録』によると、版本はいずれも一

巻七冊の体裁をとるらしく、後人の手により三冊に合

綴されたものと思われる。

日本書紀神代卷抄 清原宣賢抄 刊年未詳整版

一冊 文学部蔵(国史3A19)

〔表紙〕改 茶色 二六・四×一八・七cm

〔外題〕日本紀神代抄（改題簽）

〔内題・版式〕右に同じ

〔構成〕「起」「卷一」「卷二」「卷三」「下卷之沙汰」

墨付全六五丁

〔書入〕有（朱）

〔備考〕零本。「卷三」の後に「下卷之沙汰」が組み込まれている。

日本書紀神代合解 一二巻 清原国賢編 寛文四年整版

一二冊 附属図書館音無文庫蔵（611212）

〔表紙〕原 はなだ色 二七・四×一九・六cm

〔外題〕~~新~~日本書紀神代合解（原題簽）

〔内題〕神代合解 〔柱書〕日本書紀合解

〔匡郭〕四周单边 二三・四×一七・七cm 一八・四×

一四・四cm

〔行数〕本文一二行 龍頭注二二行

〔墨付〕第一冊五二丁、第二冊三九丁、第三冊四六丁、

第四冊三八丁、第五冊二六丁、第六冊三七丁、第七冊

四五丁、第八冊三八丁、第九冊二九丁、第一〇冊四〇

丁、第一一冊三四丁、第一二冊三四丁

〔奥書〕慶長己亥姑洗吉辰／正四位下行少納言兼侍從臣

清原朝臣国賢敬識

〔刊記〕寛文四年三月下旬／村田勝五郎開板

〔印記〕各巻首に「水戸高部・国松」（黒）「音無文庫」

（緑）

〔備考〕『抄物小系』一九に寛文四年整版が収められている。

中臣祓抄 二巻 抄者未詳 慶安四年整版

二冊 附属図書館音無文庫蔵（176ナ16）

〔表紙〕改 はなだ色 二七・四×一九・五cm

〔外題〕中臣祓抄（改題簽） 〔内題〕中臣祓抄

〔匡郭〕四周双边 二〇・二×一五・三cm

〔行数〕半面一〇行

〔構成〕上冊（本）二四丁、下冊（末）二五丁

〔刊記〕慶安四辛卯歲仲秋 風月

〔備考〕『国書総目録』では、抄者を「清原宣賢？」と

される。『大祓詞註釈大成』上に翻刻がある。

太平記鈔 四〇卷 伝日性抄 慶安三年整版

一〇冊 文学部蔵(国文11・41)

〔表紙〕原 栗皮 二八・〇×二〇・三 cm

〔外題〕太平記鈔(原題簽)

〔内題〕太平記鈔 〔柱書〕太平抄

〔匡郭〕四周单边 二二・四×一六・五 cm

〔行数〕半面一二行 〔書入〕有(朱)

〔刊記〕慶安三曆仲夏/野田弥兵衛新刊

〔備考〕第五冊卷一三の第一二丁、第六冊卷二〇の第七

丁をそれぞれ脱す。『国書総目録』によると、この他

慶長十五年古活字版、元和寛永古活字版がそれぞれあ

るとのこと。また、『国文註釈全書』二に翻刻がある。

御成敗式目諺解 六卷 清原宣賢抄 元祿十二年整版

六冊 文学部崎門文庫蔵(崎門文庫100)

〔表紙〕原 はなだ色 二五・七×一八・一 cm

〔外題〕式目諺解大成(原題簽)

〔内題〕御成敗式目諺解 〔柱書〕式目抄

〔匡郭〕四周单边 二〇・三×一五・七 cm

〔行数〕半面一一行

〔墨付〕第一冊三三丁、第二冊二七丁、第三冊二六丁、

第四冊二七丁、第五冊二六丁、第六冊三二丁

〔奥書〕以祖父常忠御説先年令抄出之処局務外史業賢盜

／取之間重令抄出之以此本可為証一子之外不可許一／

覧而已／天文三年閏正月廿八日終其功／清三位入道環

翠軒宗允判

〔刊記〕元祿十二己卯稔

〔印記〕卷一・卷二の表紙裏に「喜」

〔備考〕『続史籍集覧』二に清原枝賢奥書本が収められ

る他、『中世法制史料集』別巻に翻刻がある。

御成敗式目抄 二卷 抄者未詳 寛政七年整版

二冊 医学部法医学教室蔵(法42302)

〔表紙〕原 はなだ色 二五・六×一八・一 cm

〔外題〕<sup>新</sup>御式目抄(黄色地、原題簽)

〔内題〕御成敗式目 〔柱書〕式目抄

〔匡郭〕四周双边 二〇・八×一六・一 cm

〔墨付〕上冊三八丁、下冊二六丁

〔刊記〕寛政七年卯初春/平安書林書屋儀兵衛求板

〔序文〕凡此式目は先代之法を残す一卷也先代之間と／

云は高倉院治承四年より光嚴院元弘三年に／至るまで百五十四年なり（中略）貞永元年七月十日に評定しはしめて／八月十日清書する也此式目之法にて／百年あまり治まる也

〔備考〕漢字平仮名交じり。植木（一九三〇）では、このような平仮名交じりの二冊本式目抄を「平仮名式目抄」と称され、清原氏系統の本文を有するとされた。また、その刊本の種類は、寛永二一年版、慶安元年版、寛文八年版、寛政七年版、無刊記（五種）の九種が存するという。

御成敗式目抄 二卷 抄者未詳 無刊記整版

二冊 附属図書館萩野文庫蔵（シ25）

〔表紙〕原 はなだ色 二六・一×一八・一cm

〔外題〕貞永式目抄（改題簽か）

〔内題〕御成敗式目 〔柱書〕式目

〔匡郭〕無辺 〔行数〕半面一一行

〔墨付〕上冊三八丁、下冊二八丁

〔備考〕漢字平仮名交じりで、右と同一の本文を持つ。

謡抄 有節周保・英甫永雄・山科言経等抄 無刊記整版

一一冊 附属図書館音無文庫蔵（550ウ5）

〔表紙〕原 緑青色 一九・〇×一三・三cm

〔外題〕謡鈔（原題簽）

〔匡郭〕四周単辺 一六・三×二四・六cm（一面）

〔行数〕半面九行

〔構成〕第一冊：鞍馬天狗一〇丁、高砂九丁、江口二〇

丁、百万一九丁、桜川九丁

第二冊：田村一五丁、天鼓一三丁、八島一四丁、三輪

九丁、融一〇丁

第三冊：熊谷一六丁、盛久二一丁、難波一九丁、軒端

梅一六丁、景清一二丁、松風九丁、藤戸一二丁、小塩

七丁、セカイ一三丁、鬻一八丁

第四冊：老松八丁、朝長一三丁、楊貴妃一六丁、紅葉

狩九丁、姥棄一三丁、通小町一二丁、三井寺一一丁、

蟻通九丁、西行桜一〇丁、矢卓鴨七丁

第五冊：白楽天九丁、兼平一三丁、定家一一丁、山婆

一九丁、夕顔一〇丁、籠太鼓六丁、遊行柳一九丁、女

郎花一一丁、葛城一〇丁、春日龍神一九丁

第六冊：養老一〇丁、通盛八丁、二人静五丁、木曾一

四丁、大原御幸一八丁、ウトフ一二丁、角田川九丁、

自然居士二〇丁、殺生石一四丁、道明寺一五丁

第七冊：志賀一三丁、清経一一丁、芭蕉一三丁、安達

原一一丁、松垣一〇丁、松蟲九丁、班女八丁、富士太

鼓四丁、誓願寺一八丁、張良一〇丁

第八冊：玉井一四丁、頼政九丁、野宮七丁、道成寺八

丁、鸚鵡小町一一丁、錦木一二丁、花筐一二丁、槿九

丁、鉄輪八丁、東岸居士一八丁

第九冊：呉服七丁、実盛一五丁、関寺小町一二丁、俊

寛一〇丁、千手重衡一三丁、阿漕七丁、葵上一二丁、

杜若一〇丁、昭君一四丁、羽衣一二丁

第一〇冊：放生川一七丁、井筒七丁、卒都婆小町二四

丁、鶴一一丁、佛原一二丁、小督八丁、浮舟六丁、梅

枝一二丁、項羽一一丁、龍田七丁

第一一冊：鶴羽四丁、短冊忠度九丁、采女二〇丁、

安宅二四丁、源氏供養九丁、船橋一五丁、柏崎一五丁、

雲林院八丁、鶴飼七丁、當麻一七丁

(全一〇〇番。表記は本文の最初に示してある題に従

った。)

〔印記〕各冊一丁才に「寺尾壽所蔵」「音無文庫」「休

保」(いづれも朱)

〔備考〕『竜谷大学善本叢書』に影印があり、『日本庶

民文化史料集成』三に翻刻がある。また、伊藤(一九

七七a・一九七七b・一九七八)に詳しい論考がある。

### 参考文献

赤瀬信吾(一九八七)「向日庵抄物目録」『向日庵抄物集』

清文堂

阿部隆一(一九六二)「本邦中世に於ける大学中庸の講誦

伝流について——中庸の古鈔本並に邦人撰述注釈書

より見たる——」『斯道文庫論集』一

伊藤正義(一九七七a)「謡抄考(上)」『文学』四六・一一

——(一九七七b)「謡抄考(中)」『文学』四六・一二

——(一九七八)「謡抄考(下)」『文学』四七・一

植木直一郎(一九三〇)『御成敗式目研究』岩波書店

遠藤実夫(一九三四)『長恨歌研究』建設社

遠藤嘉基・寿岳章子(一九五三)「抄物目録(I)」『国語

国文』二二・一〇

遠藤嘉基(一九五五)「抄物目録(II)」『国語国文』二四

・一

金田弘(一九七六)『洞門抄物と国語研究』桜楓社

国田百合子(一九八二)『長恨歌・琵琶行抄諸本の国語学

的研究 資料篇』ひたく書房

——(一九八三)『長恨歌・琵琶行抄諸本の国語学

的研究 翻字校異篇』桜楓社

興膳宏・木津祐子(一九九五)『京都大学附属図書館所蔵

貴重書漢籍抄本目録』京都大学附属図書館

小林千草(一九九二)『日本書紀抄の国語学的研究』清文

堂

坂詰力治(一九七四)『逢左文庫蔵』仏制比丘六物図抄』

について』『近代語研究第四集』武蔵野書院

寿岳章子・樺島忠夫・大塚光信(一九五九)『永正本六物

図抄』

西田絢子(一九七七)『駿河御讓本』『江湖風月集抄』解題』

『抄物大系』勉誠社

柳田征司(一九八三)『抄物目録稿』『訓点語と訓点資料』

七〇

——(一九八七)『抄物の研究 六』愛媛抄物研究会

——(一九九二a)『桂林徳昌講一元光演聞書』古文

真宝抄』彦龍周興講某聞書『古文真宝抄』について』

『続抄物資料集成第十卷 解説・索引編』清文堂

——(一九九二b)平成五年度後学期九州大学集中講

義配布プリント

——(一九九五)『伝雪庭春積抄』禪宗無門関抄』の

古活字版』『財団法人松ヶ岡文庫研究年報』九

## 付記

本稿を成すにあたっては、柳田征司先生による平成五年度後学期集中講義(於九州大学)にて賜った学恩に拠るところが非常に大きい。記して心より謝意を表したい。また、九州大学大学院近世文学専攻の院生諸氏に教えられたことも少なくない。ならば記して感謝申し上げます。

ただし言うまでもなく、本稿における不備や誤りはすべて筆者に帰するものである。大方の御批正をお願いしたい。

今回調査したもののうち、次の書物は抄物の範囲に入らないとして、目録からは除いた。「六物図講義」（写二冊、松濤文庫蔵、第3部B78）「六物図聞書」（写一冊、松濤文庫蔵、第3部B90）「大学抄」（写一冊、文学部蔵、支哲6・11）「老子経抄」（写四冊、文学部蔵、国文11・12）「神代抄」（写三冊、文学部蔵、国文16D6）。また、九州大学蔵の抄物のうち、医家の抄物については今回は取り扱うことができなかった。「九州大学蔵抄物目録(II)」として、医家の抄物の目録稿を早急に作成したい。

なお、本研究は、日本学術振興会の研究助成および平成八年度文部省科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による研究成果の一部である。

——九州大学大学院博士後期課程・

日本学術振興会特別研究員——